

2024年2月27日

車載用リチウムイオン電池外装缶の北米現地調達拡大による サプライチェーン強靱化に向けて H&T 社と供給契約を締結 ～EV 普及に向けた車載電池の生産能力拡大と安全性向上を実現～

パナソニック エナジー株式会社（本社：大阪府守口市、社長：只信一生、以下 当社）は、電気自動車（EV）の普及に向け、安全性の高い車載用リチウムイオン電池の生産拡大を目的に、[H&T Recharge](#)（本社：ドイツ・マルスベルク、CEO：Tobias Ott、以下 H&T）と、このたび北米における電池外装缶の長期供給契約を締結しました。H&T は、現在も当社米国ネバダ工場の構内においてリチウムイオン電池生産向けに外装缶を供給するパートナーですが、本契約により、2024 年度に稼働を開始予定のカンザス工場にも供給を開始します。

世界規模で EV シフトが進む中、当社はその需要に対応するための生産拡大や、EV の航続距離向上に寄与する電池セルの性能向上や長寿命化に取り組んでいます。同時に、車載電池は EV 搭載時にモジュール化された際に隣接セルを巻き込んだ類焼を抑制することが安全性を高める上で重要なため、当社リチウムイオン電池は、外装缶を含め電池全体に最適に構成された部材を用いて、セルの破裂や発火などを制御する設計を独自開発し採用しています。

一方で、H&T は、製缶において最も重要な金属プレス技術や金型の設計、製造機能を自社内に有しており、高水準のプレス加工技術と大量生産の両方を可能とする北米で唯一の会社です。また、主要工程を全自動で行う生産ラインを設計し、安定生産・安定品質・効率性を実現しています。同社は 2017 年より約 5 年間にわたって、当社ネバダ工場向けに年間 40GWh 弱相当の外装缶を供給してきた実績があります。年間約 30GWh を生産予定のカンザス工場への供給分に関して、ネバダで培った経験を活かし、更に生産性と品質を高められる生産ラインを導入予定です。

当社は、重点地域である北米での車載電池の生産拡大に向け、材料確保の安定性の観点からも、材料の現地調達比率の向上を推進しています。また、現地調達は物流によるカーボンフットプリント（注 1）低減、輸送費等のコスト削減にも寄与するため、米国カンザス州に工場を有する H&T と北米において戦略的なサプライチェーンの構築を強化していきます。

当社の優れた電池技術および豊富な知見により、今後もリチウムイオン電池業界の成長を牽引するとともに、ミッションである「幸せの追求と持続可能な環境が矛盾なく調和した社会の実現」に向け、引き続き様々なパートナーシップの構築を進めていきます。

（注 1）カーボンフットプリント：原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量を CO₂

換算で表した数字

以上